

岩手医科大学歯学会30周年記念事業を終えて



岩手医科大学歯学会30周年事業実行委員会
委員長 米 満 正 美

第30回総会が平成16年12月11日（土）に歯学部大講堂で開催された。本学会が発足して30年の節目の総会であることから、開催にあわせて2年ほど前から記念事業の企画・立案を開始した。大学における研究体制も10年前とは様変わりし、「先進歯科医療研究センター」との併催となった。午前中の一般講演、歯科放射線学講座の小豆島正典教授の特別講演、総会のあと午後の記念講演には諏訪中央病院の鎌田實先生をお招きし、「がんばらない」けど「あきらめない」—命を支えるということ— というタイトルでご講演をいただいた。

医療というのは「病気を診る」のではなく「病人を診る」ということ、さらに「生きる」ことの意味を改めて考えさせられ、これからの医療の進むべき道がえられた素晴らしい講演であった。一般公開ということもあってほぼ満席の聴衆であった。

引き続き行われた記念シンポジウムでは、國松和司教授をモデレーターに、春日井昇平（東京医科歯科大学教授）、伊藤公一（日本大学教授）、中里滋樹（なかざと歯科医院）の三先生をお招きし、「歯科における先端医療の現状と将来」が行われた。インプラントを中心に基礎から臨床まで解りやすい内容で好評のうちに終了した。併せて講堂前でのパネル展示会場では多くの方々が議論する光景が見うけられた。記念講演、シンポジウムの詳細については抄録集をご覧ください。

午後5時から佐藤俊一学長ほか来賓のご出席をいただき祝賀会がエスポワールいわてで行われた。シンポジストの先生方を囲み地ビールと地酒を酌み交わしながら有意義で楽しいひとときを過ごし閉会とした。

最後に本事業を実行するにあたりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。